

## ☆第77回国民体育大会 いちご<sup>いちえ</sup>会とちぎ国体 スポーツクライミングの部 出場



大洲高等学校 1年  
向井 颯 柁 さん

向井さんは7月23日(土)と24日(日)に高知県の吉野クライミングセンターで開催された四国予選を突破し、10月1日(土)から栃木県で開催される第77回国民体育大会いちご<sup>いちえ</sup>会とちぎ国体のスポーツクライミング少年男子の部に愛媛県代表として出場することが決定しました。

スポーツクライミングとの出会いは小学2年生の時に、父親に連れられて行ったジム。小学4年生から本格的に取り組み始め、週に3日は松山まで通い練習に励んでいます。向井さんが出場するのは、どれだけコースを登れるかを競う「ボルダリング」と、どれだけ高く登れるかを競う「リード」を合わせた複合種目。

四国予選前の県予選では体重を調整するため、「もやし」ばかり食べていたそうで、お弁当のごはんまでもやしに置き換えてマイナス4kgの減量に成功したと苦笑い。「面と向かっては言えないけど、練習の送迎や手伝い、減量メニューや毎日の栄養を考えてくれている父と母には本当に感謝しています」と感謝の気持ちを胸に「順位はあまり気にせず一手でも多く登る」ことを目標として大会に臨みます。

## HighSchool NOW

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

## Vol.67 長浜高等学校

長浜高等学校には、毎月第3土曜日に行われる「長高水族館」があります。商業部では、その水族館公開日に長浜地区の活性化のために「ポポークッキー」を販売することを目標に活動しています。何度も試行錯誤を繰り返したり、販売の工夫として自分たちで看板を作成したりしました。実際に商品開発から販売までを体験して、物を一から作る大変さや、チームでの団結力の大切さを学びました。特に販売では、お客様への接客が難しく苦戦しましたが、何度も練習し笑顔で対応できるようになりました。

この経験を生かして、ポポークッキーの販売だけでなく、新しいことにも挑戦していきたいと思います。



一回は帝京第五高等学校からです。一

叙勲・表彰 おめでとうございます

高齢者叙勲 旭日単光章



元大洲市議会議員  
松本 金次郎 さん (大洲市肱川町)

夏の夕日



出海 (8月5日(金)撮影)

優良工事表彰式

7月25日(月)、令和3年度に完成した市発注工事において、特に優秀な工事(6件)を施工した建設業者の表彰式を市役所で行い、二宮市長から表彰盾を贈呈しました。市では、技術の向上と適正な施工を確保することを目的に成績優秀な工事を毎年度顕彰しています。

【令和4年度の受賞者のみなさん (写真左から)】

村上工業株式会社(2件)、藤江建設有限会社、株式会社西田興産、株式会社一宮工務店、久保建設株式会社



えひめ南予きずな博体験会

現在開催中の「えひめ南予きずな博」への理解や南予への誘客を促進するための体験会が7月26日(火)に行われました。新しくリニューアルされた観光列車「伊予灘ものがたり」で到着した県内各経済団体の役員・会員39人が、肱南地区の町並み散策を通じて「NIPPONIA HOTEL大洲 城下町」などを視察し、大洲市の「歴史的建造物を活用した観光まちづくり」について理解を深めてもらいました。



災害時に力を合わせて

災害時における被災地支援に関する協定締結式を、7月28日(休)に市役所で行いました。

災害発生時にボランティア活動が迅速かつ円滑に実施されることを目的として、大洲市社会福祉協議会と大洲青年会議所、大洲市の3者で協定を結ぶことでボランティア活動のための資機材の調達や専門的な支援活動の分野で互いに協力しながら災害時の活動にあたっていきます。



きらめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

保健センター

相談・救急





## 大洲城ブルーライトアップ

世界肝炎デーである7月28日(木)にあわせ、大洲城が肝炎デーのシンボルカラーであるスカイブルーにライトアップされました。

これは肝炎や肝がんに対する予防啓発と患者への差別や偏見の解消を啓発するため、世界肝炎デーに合わせて愛媛大学医学部附属病院が毎年、実施しているものです。

この日は大洲城のほかに、松山市のいよてつ高島屋「くるりん」もライトアップされました。



## 緑あふれるまちづくり（植樹祭）

緑あふれるまちを次世代につなごうと、市内企業が新しく建設した倉庫で7月29日(金)に植樹祭が行われました。この植樹祭は、緑の大切さを伝えるために県内の企業で構成された「森のあるまちづくり」をすすめる会が企画し、認定こども園悠園の園児18人が参加しました。この日植えられたのは市の花木であるツツジ約160本で、園児たちはスコップを手に汗をかきながら丁寧に植えていました。



## クルマエビの稚魚を放流

長浜町漁業協同組合が主催するクルマエビの稚魚放流事業が8月3日(水)に長浜港港湾緑地で行われ、長浜高等学校水族館部の部員と教員3人が参加しました。3人はこの日用意された4～5cm程の稚魚5万匹をホースやバケツを使って漁協の職員や関係者と一緒に海へ放ちました。放流に参加した重松教諭は「クルマエビの放流は初めてでしたが思ったより大きくて驚いた」と笑顔で話していました。



## 新たなALT（外国語指導助手）が着任

8月8日(月)、ALT (Assistant Language Teacher) として来日したSroka Patricia (スローカ・パトリシア) さん(左)とGuo Emily Wenjing (グオ・エミリー・ウェンジン) さん(右)が着任の挨拶に市役所を訪れました。パトリシアさんとエミリーさんは共にアメリカ出身で、パトリシアさんは長浜中学校をベース校として、エミリーさんは大洲南中学校をベース校として、市内の小中学校で英語教育に携わっていきます。

## 夏の夜の競演

夏の夜と言えば花火。大洲にも久しぶりに花火大会が帰ってきました。今年は新谷花火大会（7月24日・500発）、大洲川まつり花火大会夏の陣（8月3日・3,000発）、ながはま赤橋夏まつり（8月6日・1,800発）が開催されました。

残念ながら出店や一部の祭りは中止となってしまいましたが、来年こそは通常どおり夏まつりが開催できることを願っています。



新谷花火大会



ながはま赤橋夏まつり

## 夏休みに英語で過ごす2日間

「2022英語キャンプ事業inおおず」事業が8月9日(火)、10日(水)の2日間にわたって国立大洲青少年交流の家で開催されました。この事業は中学生を対象に生徒の英語コミュニケーション能力の向上や、英語への関心を高め国際感覚を育むことを目的にしたもので、今回は市内の中学生18人が参加しました。最初は緊張していた生徒たちも、次第に打ち解け、英語でのジェスチャーゲームなどで盛り上がっていました。



## 古式泳法を体験

子供たちに水泳の楽しさや肱川に親しみをもってもらおうと、7月24日(日)から31日(日)の8日間、夏季水泳学校が開催されました。

例年は肱川で行われていますが、今年は増水のため大洲南中学校のプールで実施。参加した児童は大洲水泳協会や主馬神伝流保存会の指導員のもと、クロールや背泳ぎの基礎を学び、上級クラスでは大洲市に古くから伝わる古式泳法「主馬神伝流」の基本となる「あおり足」を教わりました。





## 【栗入り炊き込みご飯】



## 材料（2人分）

米	1合
むき栗	60g
油揚げ	20g
鶏肉	20g
ニンジン	20g
シメジ	20g
インゲン	適量
塩	少々
醤油・酒・みりん	A 各大さじ1
だし汁	

## 作り方

- ① 栗は一口大に切り、油揚げは短冊切り、鶏肉はこま切れ、ニンジンは千切りにし、シメジは手でほぐす。
- ② インゲンは斜め切りにして、3分ほど塩茹でする。
- ③ 炊飯器にといだ米とAを入れ、1合の目盛りまでだし汁を入れる。その上に①を乗せて炊く。
- ④ 茶碗に盛りつけたら、最後にインゲンをのせる。

## 栗の栄養

秋の味覚で大洲市の特産品である栗は、栄養価が高く、いも類（生）よりも多くのエネルギーがとれる優れた食材で、少量で満足感が得られます。また、免疫カアップや肌の老化防止に役立つビタミンC、高血圧予防に効果のあるカリウム、腸内環境を整えてくれる食物繊維などが含まれています。



【レシピ提供：健康増進課】

## 私たちにもできる

## SDGs



海は私たちが住む地球の70%を占めていて、この海を大切に管理し、環境破壊や海洋汚染から守ることが持続可能な社会を未来へ残すことにもつながります。

海の環境を破壊する原因としては産業・生活排水の流入、船舶事故などによる油の流出、ごみの不法投棄などさまざまなものが挙げられますが、近年、国際的な問題となっているのがプラスチックごみに関するものです。捨てられたプラスチックは自然分解されることがほとんど無く、最後に行き着くのが海となってしまいます。そのプラスチックごみを海洋生物が誤って食べてしまったりすることで最悪の場合は死に至り、海の生態系に大きく影響を与えています。

この問題に対して私たちができることは、プラスチックごみを適切に処分するだけでなく、プラスチックの使用量そのものを減らすことです。エコバックやマイボトルを積極的に利用することを普段から心がけ、豊かな海を守っていきましょう。

## 文化財

大洲市指定有形文化財（絵画）  
駒手丸船おろしの図 1巻  
個人所有



駒手丸とは、大洲藩が参勤交代で瀬戸内海を渡海するために使用した藩主専用の御座船で、元和2年（1616）に建造されて以降、明治維新までに10回造り替えられました。

この絵は、大洲藩御用絵師の「若宮養徳」が、文政12年（1829）に江湖（長浜）で行われた駒手丸（10代目）の進水式（新しく造った船を初めて水に触れさせる儀式）の様子を描いたものです。朱地に白の蛇の目紋の船幕で飾られた駒手丸からは餅がまかれ、周辺には多くの人が押し寄せるなど華やかな様子を伝えています。

御座船の絵は、航海する船行列を描いたものが多いなか、このように船おろしの祝いの状況を表現したものは珍しいうえ、描写が細かい点からも貴重な絵画といえます。

（昭和55年3月11日指定）